

透視・撮影プロトコルの見直し前後の不整脈アブレーションの手技線量の比較

阪井 裕治¹、有田 圭吾¹、帛田 雄介¹、肥本 大輔¹、高尾 由範¹¹大阪公立大学医学部附属病院

【背景・目的】新しい医師の着任に伴い不整脈アブレーションの透視パルスレートと撮影フレームレートを見直した (Pre : 6pulse/sec, 7.5 frame/sec, Post : 3pulse/sec, 15frame/sec). プロトコルの見直し前後の不整脈アブレーションの手技線量を比較したので報告する. 【方法】PVI のうち, CAG など他の手技を同時に施行していない症例を除外した連続30例 (Pre : 2025年1-3月, Post : 2025年5-8月) の撮影数, 透視時間, Ka.r, KAP を比較した. 両軍の患者背景 (Pre/Post, 中央値) は, 性別 (男) : 16/22, 年齢 : 74/75 歳, 身長 : 163/166cm, 体重 : 59/70kg ($p < 0.05$) であった. 【結果・結論】Pre/Post の順に手技線量の中央値[四分位数]を示す. 撮影数は45[2.5-64]/0[0-0] 回 ($p < 0.01$), 透視時間は32.9[28.3-37.1]/17.7[14.4-22.7] min ($p < 0.01$), Ka.r は141[88-304]/75[47-106] mGy ($p < 0.01$), KAP は14[9-29]/7[5-10] mGy \cdot cm² ($p < 0.01$) であった. 手法の変化, プトロコルの最適化により, 手技線量は大きく低減した.